

1 研究テーマ

『豊かな関わりの中で達成感を味わうことができる保健体育学習の在り方』

～山鹿型授業の蓄積を生かして～

生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するためには、各運動領域の特性や魅力に応じた体を動かす楽しさや特性・価値に触れる喜びを味わうことができるよう、また、健康の大切さを実感することができるよう指導方法を工夫した学習指導の実践が必要である。そして、その学習指導のポイントとして「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）を明確にすることが新しい時代に求められる資質・能力となる。そこで、教師自身が各運動領域の特性や価値に着目し、子どもに身に付けさせたい資質や能力を明確にした上で授業づくりをしていく必要がある。

本市では、山鹿型授業（学習サイクルの理論と実践の蓄積・保健体育授業のインフラ整備）をベースとしながら授業改善を進めていくことで、より達成感を味わうことができる保健体育の授業を展開することができる考える。教師の適切な支援（子どもたちの思考を深めるために発言や意見交換を促したり、気付いていない視点を提示したりする）により、学びに必要な指導の在り方を工夫したり、必要な学習環境を整備したりしていくことで、生涯にわたるスポーツライフを実現していく資質・能力の育成へと繋げていきたい。

2 研究組織

○会 長 林田 浩昭（鹿 本） ○副理事長 若杉 新策（山 鹿）
○理 事 長 内田 正典（山 鹿） ○研究理事 田島 信哉（米野岳）

3 活動状況

月	日	研究部会	活動の概要
5	11	総会・研究部会	○役員選出 ○市研究テーマ・努力点決定 ○年間活動計画の確認
7	23	夏季研修会	○研修1 タグラグビーティーチャー研修 講義「中学校の体育学習におけるタグラグビーの可能性」 実技「中学校の体育学習におけるタグラグビーの指導方法」 講師：日本ラグビーフットボール協会 上田 雄一 氏 ○研修2 レポート研修「効果的な ICT 機器の活用・協働学習について」 ○研修3 講義「中学校保健体育指導力向上研修会復講」 【体育分野】講師：山鹿市立山鹿中学校 内田 正典 教諭
10	2	半日研	○研究授業 山鹿市立米野岳中学校 第1学年 田島信哉 教諭 体育分野 「E 球技 タグラグビー」 ○授業研究会
1	28	半日研	○研修1「今年度の反省と次年度への志向」 ・今年度の取組の振り返り ・次年度への志向 ○研修2「班別協議」 ・ラーニング部会、アクティブベース部会 ・各学校の実践紹介、情報共有

4 研究の概要

(1) タグラグビーティーチャー研修会

夏季研修会の研修1では、2019年ラグビーワールドカップ開催に関連付けて、「中学校の体育学習におけるタグラグビーの可能性・指導方法」について、日本ラグビーフットボール協会の上田雄一氏に講義及び実技指導をしていただき研修を行った。講義では、タグラグビーの特性やルール解説だけでなく、他種目（球技）と比較したボール操作や得点のしやすさ、豊富な運動量・運動有能感の向上について統計データを示され、教育的価値について理解を深めることができた。実技では、楽しくボール操作を身に付ける運動例やゲームの行い方等の体験を通して、具体的な指導方法（指導のポイント）について学ぶことができた。講義・実技研修を通して、運動が得意な生徒だけでなく苦手な生徒も、タグラグビーの楽しさや特性・価値を味わえる可能性と、中学体育で教える種目としての魅力を大いに感じる事ができた。



(2) レポート研修・中学校保健体育指導力向上研修会復講

レポート研修では、本年度のテーマに対しての取組・重点取組事項（努力点）や、効果的なICT機器の活用・協働学習についてまとめたレポートを持ち寄り、各自の実践を紹介したり改善策を検討したりしながら、授業改善に努めることができた。

中学校保健体育指導力向上研修会の復講では、体育分野の「体づくり運動」の学習指導の在り方について、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて考える機会となった。運動の実践例を映像で紹介していきながら、動きの解説や生徒の実態に応じた取組例を確認することができた。



(3) 研究授業・授業研究会

夏季研修会での学びを活かし、「タグラグビー」の研究授業を米野岳中学校で行った。導入ではICTを活用し、子ども達が目的意識を持って活動に取り組めるような工夫が見られた。また、タグラグビーの特性である、「仲間と協力してトライを目指す楽しさ」「みんなで思い切り体を動かす楽しさ」を実感できる授業内容であった。授業研究会では、気づきや助言をもとに授業展開案を考え、今後の授業づくりに繋がる討議をすることができた。



5 まとめ

これまで蓄積された山鹿型授業を生かした授業展開により、豊かな関わりの中で達成感を味わい、生涯にわたるスポーツライフを実現していく資質・能力が身に付けられることをねらいとして、授業研究や研修会を行ってきた。これらの実践により、本市研究会としての共通した実践や考え方を共有しながら授業実践に繋げることができている。今後さらに、日々研鑽に励みながら教師自身が各運動領域の特性や価値への理解を深め、子どもに身に付けさせたい資質や能力を明確にした上で授業づくりをしていきたい。